

# もも管理特報 No. 4

令和4年5月19日  
みな穂もも振興会  
みな穂農業協同組合  
富山県新川農林振興センター

## 1 生育状況

- ・結実：「あかつき」は平年並み～やや良。
- ・果実肥大：平年並み。

## 2 病害虫防除

### <病害虫の発生状況>

- ・縮葉病：少発生。一部園地で多発生。
- ・せん孔細菌病：5月上旬頃に初発を確認。発生は少ない。
- ・ナシヒメシンクイ：トラップでは4月第2半旬（4月5日～10日）に初発を確認。平年に比べ早い。誘殺数は前年に比べ多い。新梢の心折れ被害は平年に比べ少ない。
- ・チャバネアオカメムシ：トラップでは4月第3半旬（4月11日～15日）に初発を確認。平年に比べ早い。誘殺数は平年並み。

### <ポイント>

- ・散布予定日に降雨が予想される場合は、前倒しで実施し、散布ムラが生じないように丁寧に散布する。

### (1) 薬剤防除

#### <結実樹対象>

| 回数      | 散布時期の目安   | 対象病害虫  | 薬剤名と希釈倍率                   |                   | 100 <sup>㎡</sup> 当たり薬剤量            | 散布量( <sup>㏄</sup> /10a) | 防除実施日(自己記入) |
|---------|-----------|--|----------------------------|-------------------|------------------------------------|-------------------------|-------------|
| 7<br>※1 | 5月26日～28日 | 黒星病、灰星病<br>せん孔細菌病<br>ホモブシス腐敗病<br>モモハモグリガ<br>アブラムシ類<br>シンクイムシ類<br>カイガラムシ類 | デランフロアブル                   | 600倍              | 166 <sup>㏄</sup>                   | 400                     |             |
|         |           |  | サイアノックス水和剤<br>(展着剤 マイリノー)  | 1,000倍<br>20,000倍 | 100g<br>5 <sup>㏄</sup>             |                         |             |
| 8<br>※2 | 6月5日～7日   | 黒星病、灰星病<br>せん孔細菌病  | トレノックスフロアブル<br>(展着剤 マイリノー) | 500倍<br>20,000倍   | 200 <sup>㏄</sup><br>5 <sup>㏄</sup> | 400                     |             |
| 9<br>※3 | 6月15日～17日 | 黒星病、灰星病、<br>せん孔細菌病<br>ホモブシス腐敗病<br>シンクイムシ類<br>ウメシロカイガラムシ<br>ハマキムシ類        | デランフロアブル                   | 600倍              | 166 <sup>㏄</sup>                   | 400                     |             |
|         |           |  | ダズバンDF<br>(展着剤 マイリノー)      | 3,000倍<br>20,000倍 | 33g<br>5 <sup>㏄</sup>              |                         |             |

- ※1 せん孔細菌病の多発園では、バリダシン液剤5（500倍、収穫7日前まで、4回以内）を加用する。
- ※2 前年、カイガラムシ類の多発した園では、アブロード水和剤（1,000倍、収穫14日前まで、3回以内）を加用する。
- ※3 せん孔細菌病の多発園では、袋掛けを早め実施し、袋掛け終了後、速やかにICボルドー412（50倍）にクレフノン（100倍）を加用し特別散布する。その際、薬害防止のため、散布後2～3日程度降雨が予想されない時期を見計らって散布する。

## <未結実樹対象>

| 回数     | 散布時期           | 対象<br>病害虫   | 薬剤名と希釈倍率                 |                   | 100%<br>当たり<br>薬剤量 | 散布量<br>(ℓ/10a) | 防除実施日<br>(自己記入) |
|--------|----------------|---|--------------------------|-------------------|--------------------|----------------|-----------------|
| 5<br>※ | 5月20日<br>～22日頃 | 黒星病<br>せん孔細菌病<br>モモハモグリガ<br>アブラムシ類                                | トレノックスフロアブル              | 500倍              | 200cc              | 100～<br>200    |                 |
|        |                |   | アドマイヤー水和剤<br>(展着剤 マイリノー) | 2,000倍<br>20,000倍 | 50g<br>5cc         |                |                 |
| 6      | 6月3日<br>～5日頃   | 黒星病、灰星病<br>せん孔細菌病<br>ホモブシス腐敗病<br>シンクイムシ類<br>ウメシロカイガラ<br>ムシ、ハマキムシ類 | デランフロアブル                 | 600倍              | 166cc              | 100～<br>200    |                 |
|        |                |   | ダースバンDF<br>(展着剤 マイリノー)   | 3,000倍<br>20,000倍 | 33g<br>5cc         |                |                 |

※ せん孔細菌病の多発園では、バリダシン液剤5（500倍、収穫7日前まで、4回以内）を加用する。カメムシ類の発生が多い場合は、アドマイヤー水和剤を1,000倍に変更し散布する。

・農薬散布時は、使用前に農薬ラベルの登録内容をよく確認して使用してください。

## (2) 耕種的防除

### (せん孔細菌病の春型枝病斑対策)

- ・芽の枯れ込み、葉芽の奇形・不発芽、枝が黒～褐色に変色等の春型枝病斑がある枝を切除し、園地外で処分する（写真1）。
- ・作業は5月下旬頃まで複数回実施し、病斑枝の除去を徹底する。

### (灰星病対策)

- ・「花腐れ症状」の発生している枝の除去を徹底する（写真2）。

### (縮葉病対策)

- ・縮葉病が多発している園では、罹病葉を摘除し、園地外で処分する（写真3）。

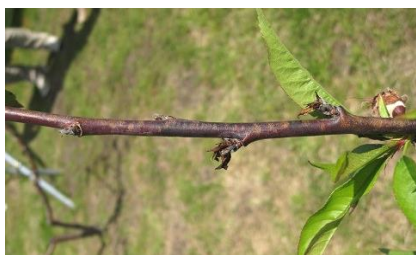


写真1  
せん孔細菌病の「春型枝病斑」



写真2  
灰星病の「花腐れ症状」



写真3  
縮葉病の罹病葉

### 3 今後の管理

#### <ポイント>

- ・【着果管理】仕上げ摘果は、予備摘果が終了次第開始し、6月5日頃（硬核期前）までを目安に終了する。
- ・【新梢管理】徒長枝の発生が旺盛な樹は、徒長枝の長大化、薬剤到達性の低下を防ぐため、硬核期前に新梢管理を実施する。
- ・【土壌水分管理】本年定植した苗木は、土壌水分の変動に弱いため、別紙チェック表のとおり、土壌の強い乾湿の差が起きないようにかん水を行い、初期生育を確保するため、追肥（硫安で200～300g/株）を行う。

#### （1）着果管理（仕上げ摘果）

- ・結実が平年並み以上確保されている園では、下記の着果量を目安に摘果する。

#### 着果量の目安

| 結果枝  |         | 着果量     |         |
|------|---------|---------|---------|
| 種類   | 長さ      | 予備摘果後   | 仕上げ摘果後  |
| 短果枝  | 5～10cm  | 1本に1果   | 3～4本に1果 |
| 中果枝  | 10～30cm | 1本に1～2果 | 1～2本に1果 |
| 長果枝  | 30～50cm | 1本に3～5果 | 1本に2～3果 |
| 極長果枝 | 50cm以上  | 1本に6～7果 | 1本に4～5果 |

※若木は、樹勢が強く生理落果しやすいので、仕上げ摘果後の着果量を1～2割多くする。

#### （2）袋掛け

##### 目的

- ・果面の肌荒れ防止、裂果防止、病虫害被害果の発生軽減、着色促進。

##### 実施時期

- ・ 仕上げ摘果終了後～6月20日頃まで

※せん孔細菌病の発生が多い樹は、早め（梅雨入り前まで；平年6月12日頃）に袋掛けを完了する。

#### （3）新梢管理（成木）

##### 目的

- ・夏季の受光態勢の向上、樹体の日焼け防止、翌年の結果枝の確保。

##### 実施時期

- ・5～6月。

※硬核期間中（満開55～75日後頃）は、生理落果や核割れ防止のため控える。

##### ①芽かき

- ・主幹、主枝、亜主枝等の背面の強勢な新梢は早めにかきとる。

## ②摘心（写真 1）

- ・ 主枝や亜主枝の背面や基部付近で、日焼け防止が必要な場所から発生した新梢は、葉を 5～6 枚残して摘心する。
- ・ 徒長枝等は、長めの副梢を 2～3 本残して摘心し、翌年の結果枝として利用する。

## ③稔枝（写真 2）

- ・ 勢力の強い新梢を重点に、新梢の長さが30cm 以上となったものから順次行う。



## ○5月中旬～6月中旬 ももの作業チェック表

| 作業内容   | 作業のポイント  | 実施時期                          | 実施予定日<br>(自己記入) | 実施日<br>(自己記入) |
|--------|--|-------------------------------|-----------------|---------------|
| 薬剤散布   | <ul style="list-style-type: none"> <li>散布ムラが生じないように丁寧に散布する</li> <li>散布間隔が10日以上あかないように注意する</li> <li>散布予定日に降雨が予想される場合は、前倒しで実施する</li> </ul>             | 2. 病虫害防除<br>(1) 薬剤防除参照        |                 |               |
| 罹病枝の切除 | <ul style="list-style-type: none"> <li>せん孔細菌の春型枝病斑は、5月下旬頃まで複数回、症状のある部分の枝を切除し、園地外で処分する</li> <li>灰星病の花腐れ症状の発生している枝を除去する</li> </ul>                     | 随時                            |                 |               |
| 仕上げ摘果  | <ul style="list-style-type: none"> <li>最終着果量の1.1～1.2倍量を目安に果実を残す</li> <li>大豆の播種作業等と競合しやすいので、作業時期に留意し、作業人数を確保する</li> <li>※必ず栽培担当者が着果量を確認する</li> </ul>  | ◆「あかつき」<br>予備摘果終了後～6/5頃（硬核期前） |                 |               |
| 袋掛け    | <ul style="list-style-type: none"> <li>せん孔細菌病の発生が多い樹は、入梅前までに袋掛けを完了する</li> </ul>  | 仕上げ摘果終了後～6/20頃まで              |                 |               |
| 新梢管理   | <ul style="list-style-type: none"> <li>発生位置に応じた管理をする（切除、摘心、捻枝）</li> <li>強樹勢の樹体や幼木は、作業が遅れないよう注意する</li> <li>亜主枝候補枝は誘引し、主枝との角度、勢力差を保つ</li> </ul>        | 仕上げ摘果と同時期（硬核期前）               |                 |               |
| 土壌水分管理 | <ul style="list-style-type: none"> <li>乾燥、少雨が1週間以上続く場合は、かん水を実施する<br/>特に苗木はこまめにかん水を実施する</li> <li>多雨となった場合は、明きよの設置により園地内に雨水が停滞しないよう排水対策に努める</li> </ul> | 必要時                           |                 |               |